



歌集

上

~ 4
224
1



門利  
號 224  
卷 1

東市  
學校

古今和歌集序

夫和歌者託其根於心地發其花於詞林者也人之在世  
不鮮多為思慮易遷哀樂相感生於志氣形於言是以  
鬼神化人倫和夫婦莫宜於和歌倭詩有六義一曰風二  
曰賦三曰比四曰興五曰雅六曰頌若夫春鶯之啼花中  
蝶舞之吟樹上雖無曲折各奈款款物皆有之自然之理  
也然而神世七代時質人淳情欲無分和歌未作逮于素  
盡鳥尊到出雲國始有三十二字之詠今反歌之作也其  
後雖天神之孫海童之女莫不以咏哥通情者及人代  
此風大興長歌短哥旋頭混本之類雜舞非一源流漸滋  
譬猶排雲之樹生自寸苗之煙浮天之波起於一滴之露  
至如難波津之什獻  
天皇富緒河之篇報太子或事瀨神異或真入幽玄但見

明治三年九月五日購求

上古哥多存古質之語未為耳目之翫徒為羞穢之端亦  
天子每良辰美景詔侍臣預宴筵者獻和哥君臣之情由斯  
可見賢惠之性於是相分所以隨民之欲擇士之才也自  
大津皇子之初作詩賦詞人才子慕風繼塵移彼漢家之  
字化我日域之俗民業一改和詩漸衰矣尚有先師掃本  
太史者高振神妙之思獨步古今之間有山邊赤人者並  
和歌仙也其伴業和哥者綿綿不絕及彼時變澆漓人貴  
奢淫浮詞雲與艷流泉涌其實皆落生花孤榮至其好色  
之家以此為花鳥之使乞食之客以此為活計之謀故半  
為婦人之右進太夫之弟近代存古風者終一二二人矣  
長短不同論以可辨在正古得哥之辭然其詞花而  
少實如畫畫好女徒動人情在原中得之歌其情有餘生  
詞不足如萎花雖少彩色而有薰香文琳巧琢物然其新  
近信如賈人之看舞衣字治山僧喜撰生詞舞舞而首底

停滿如望秋月過曉雲小野小町之歌古衣通曉之流也  
然艷而無氣力如病婦之憂死彩大友黑生之歌古猿丸  
太夫之空也頗有逸興而辭甚鄙如田夫之息死前也此  
外氏姓流俗者不可勝數其大底皆以艷為基不知歌之  
趣者也俗人爭事榮利不用和歌悲哉雖貴相將  
富得金錢而骨未腐土中名先滅於世上適為後世彼知  
者唯味歌之人而已何者語近人耳義慣神明也昔乎堪  
天子詔侍臣令撰萬葉集自亦以來時歷十代數過五十年其  
后和詩亦不被採用雖風流如聖宰相輕情如在約之而  
皆以他戈同不以形道願  
陛下御宇于今九載仁流秋津洲之外惠茂筑波山之陰  
溯變為淵之聲寐一閑口砌長為著之頌洋之滿耳思繼  
既絕之風欲與之廢之道爰詔大內記紀友則濟文所預  
紀貫之弟甲斐少目允河內躬恒右衛門府生壬生忠岑

等献家集並古今歌曰續方集集於是重有詔部類所  
奉之請勸為二十卷名曰古今和歌集後等類少春死之  
苑名竊秋夜長況哉進怒時俗嘲退慙之藝之拙適  
遇和詩之中與以樂音道再昌嗟乎人丸既没和歌不  
在斯哉于時延喜五年歲次乙丑四月十八日臣貫之等  
謹序

右者以テ

飛鳥井大納言雅章卿祕事之御點本正寫之畢

延寶二甲寅歲三月發行

寛政十戊午年九月重鐫

江戸淺草茅町二町目

酒原屋伊八

文化九壬申年七月求板

屋海と秋を今乃心をあつてしる後流のよれ集とそ  
なまよりくる世中にある人にとわさあつたものあれらんよ  
ありふ事とつものさく物よをていつひのさるなるは  
よ形くうくひとあよむむらひの乃く志とさうけをのさ  
しいころをたつた秋と海さるらうらうらとそをい  
まして阿光つらうさうさうさうさうめふみぬねよ非とそ阿ハ  
まよおりのせ奴とそ女乃なるそそ屋りかけた冬死の  
ゆ乃心をさうくさむらひありは秋お光つら乃むら  
あさう海りくるさ死よりつてさうさうさうら  
あまのうれえのまよそそめ非と非とあつた事とそ世にけりさるは  
かりたまるまよとつらうさうさうの  
ひさうさ乃阿めりさく志とさうさうさうさうさう  
あさうのひあひあめさうさうさうの非たさうさうさうさうさう  
さうさうのえひさうさうさうさうさうのうれとさうさうさうさう  
あさうぬさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

西へは... 乃世と... ひよ...

かしてそ... とうた... 西と...

たうい... あひく... なるる...

おちこ... ぬま... してま...

あま... なるる... なるる...

なるる... なるる... なるる...

なるる... なるる... なるる...

なるる... なるる... なるる...

なるる... なるる... なるる...

なるる... なるる... なるる...

なるる... なるる... なるる...

なるる... なるる... なるる...

元は世もなほくしてそれをもよなはんわらふはよひをかりけりけりけり  
ともみいあこころちめ乃あわれうまのまもつらりのせくらもあつらひの  
わりはてしなくなるをそれうまうつらひ

よのよはたとくさひ

我意はよむいさしはいさしありそ海は深乃

まのいこまのいしはくはもよとくつらなるか

それな海川の草木をきく物よつきてはひさひさなるの秋まうくねる  
あきんたさうこれとて秋のそふあまやまにまればすこしとまを  
えらあうか一は広れあふ乃しちやうとあり風とてあつらぬいふ  
うまひさいにうりはあかまやうまあうらん

つしつら乃なまむ世たのせははつららり人れま  
乃とく終一うと海一とつらなるか

それなこののかりたしはひさひさなるの秋まうくねる  
あきんたさうこれとて秋のそふあまやまにまればすこしとまを  
えらあうか一は広れあふ乃しちやうとあり風とてあつらぬいふ  
うまひさいにうりはあかまやうまあうらん

それのいむいもとんたりたれく乃とく  
よのよはたとくさひ

あまは世とあめて物よつきてはひさひさなるの秋まうくねる  
あきんたさうこれとて秋のそふあまやまにまればすこしとまを  
えらあうか一は広れあふ乃しちやうとあり風とてあつらぬいふ  
うまひさいにうりはあかまやうまあうらん

きて人とあひねむら移よあまのひきも所住乃るの  
 松とあひひかいの屋にありて男はれむしとあま  
 てまゝと人し乃一時とら移るもあまのひきてそたてさ  
 めぐる又ま乃あまふ花れちるどとん秋乃たれれうこ  
 のえ乃あひひあまのひきもあまのひきもあまのひきも  
 中の書と波ととたをえあまのひきもあまのひきもあまのひきも  
 多とたれとらひひあまのひきもあまのひきもあまのひきも  
 ひ世よまひひきもあまのひきもあまのひきもあまのひきも  
 波とつげ野中れあまのひきもあまのひきもあまのひきも  
 阿つと乃あまのひきもあまのひきもあまのひきもあまのひきも  
 うとあまのひきもあまのひきもあまのひきもあまのひきも  
 こころあまのひきもあまのひきもあまのひきもあまのひきも  
 橋もはくあまのひきもあまのひきもあまのひきもあまのひきも  
 光多のひきもあまのひきもあまのひきもあまのひきもあまのひきも  
 里そひらまらあまのひきもあまのひきもあまのひきもあまのひきも

海一めしとらあまのひきもあまのひきもあまのひきもあまのひきも  
 うとあまのひきもあまのひきもあまのひきもあまのひきもあまのひきも  
 美も人もあまのひきもあまのひきもあまのひきもあまのひきも  
 田川よあまのひきもあまのひきもあまのひきもあまのひきもあまのひきも  
 妻乃あまのひきもあまのひきもあまのひきもあまのひきもあまのひきも  
 のとあまのひきもあまのひきもあまのひきもあまのひきもあまのひきも  
 うとあまのひきもあまのひきもあまのひきもあまのひきもあまのひきも  
 ともあまのひきもあまのひきもあまのひきもあまのひきもあまのひきも  
 あまのひきもあまのひきもあまのひきもあまのひきもあまのひきも

かすのみよのひきもあまのひきもあまのひきもあまのひきもあまのひきも  
 人もあまのひきもあまのひきもあまのひきもあまのひきもあまのひきも  
 一乃あまのひきもあまのひきもあまのひきもあまのひきもあまのひきも  
 つふとあまのひきもあまのひきもあまのひきもあまのひきもあまのひきも  
 くれとあまのひきもあまのひきもあまのひきもあまのひきもあまのひきも  
 この女よあまのひきもあまのひきもあまのひきもあまのひきもあまのひきも  
 あまのひきもあまのひきもあまのひきもあまのひきもあまのひきも





死すをわたりそほひひかき身とうたふされ移さしむるまのあつらん  
とてありふりしちりひめいひまのうらなひのまひありしころのうらなひ  
ふれまひひこそ 大友のら後ゆいそのさゆい中しつゝなきて  
あつらんも  
おふふ屋より乃む乃うけは屋ひめつらん  
おひおてあひひひひはちらん乃かなとてさうかひんかひんやう  
さうらりてみてゆんさうおふふあの中しぬるは

このあひの乃ゆくろれ名ささく梅つるのよはたつらんうられん  
ひむらうらささ中しに志きた本の地ふ乃しとくにおあひ  
まやうらささのさあひしてそのさ梅あしぬあつらんしつ  
よつらんさうさされあれたのしきあつらんしきひん事よ  
乃乃とたうこのうらひあんならぬらあまひひさおあひん  
うらささしこのなるん屋しまのほつまてたうれひらんさ  
おあひめらん乃うけはくらん乃梅しちりもあけくお  
し梅しくあひのさうらしとささあしきひひひ梅りら  
くはしとささしつらぬあまひふたの事とも思われ  
ありあひしとささおしあひんをてしともみうありは

乃世ぬをけしつれなそそ英むあひひ月ナツるよ大内記さ  
れとのおらし書乃とさ梅のわつらんさされ書んそさあ  
うひ乃ささ書おしおふらん乃らんひあ梅つれ府をさ  
れさみひらんおあひをしつれてあつらんし梅しつらぬあ  
れうさうらん乃とささあまらうしあひひひてなん  
それうたうらぬとむれさうさひよらさうし梅を梅  
さひひとささしつらぬらと梅さうらららららららららら  
はうあよつきてあひとあひひ女とさうらららららららら  
とらしてはまさとあひひあさうらららららららららららら  
のりあひひまあ扶あひあもつらぬらららららららららら  
えらららららららららららららららららららららららら  
古今さうららららららららららららららららららららら  
て山あしあれきさうらららららららららららららららら  
ゆきはら梅はあれさうらららららららららららららららら  
せふれりしあつららららららららららららららららららら

紫のまゝ乃花より心もくおくしてひあーさるのま  
れらのあり交れくしてれえう川を人乃みそ母れう  
う川を弁れれららあへくあしく雲れららお  
くーのあをあーううゆをううこの世よれあーく  
ひまれしてこの事れ時よあはは城あんららひめる人  
まらあくありあされと彼乃くうこは終るふうあ  
ひ時うらの事ららあはーうあーこゆえうあもこ  
らうれれきーある城やあ城や乃のあーあー彼れ  
とれ散うあひーてまられららあうけううり  
り乃れひひーくさまられらら彼乃さ海ととちり  
とれん城えくさあ人あかそく月城らあう  
あゆあー城ああさそく城らひらあう

古今和歌集巻第一

表の上

うらうらに表あらうる日あたる

と東之方

うらうら小表あさふらり下とせとらうとわいらんくさあえ

あうらあをうらうらあたる

紀貫之

神ひらてむとひりあれらああると表立うら乃風やん

あーらあ

よみひーらあ

美雲霞とそるあう川こみうーれく若舟乃山よ雲あふりつ

二条乃うらうらあ表のうーあ乃あ

若乃うらよ表あさひかり雲れら海まわん

あーらあ

よみひーらあ

梅のえよさわかあ雲あまうあけともあまう若あうつ

若乃あにうらうらあたる

多住法師

あそむむとやあそん白雲乃くくれふ枝よきれあそ

あそむむ

あそむむ

あそむむとやあそん白雲乃くくれふ枝よきれあそ

或今乃いそくはれおぼさおやいそく地さこのあそ

二条乃名れさる雲のこもまじおとさあそく多の時正月うるおまき  
はあそむくおぼさおとあそむひに目さてりあそむる乃り  
らふあそむるさるさるさるさるさるさる

あそむむとやあそん白雲乃くくれふ枝よきれあそ

あそむむとやあそん

あそむむとやあそん

あそむむとやあそん白雲乃くくれふ枝よきれあそ

あそむむとやあそん

あそむむとやあそん

あそむむとやあそん白雲乃くくれふ枝よきれあそ

あそむむとやあそん

あそむむとやあそん

あそむむとやあそん白雲乃くくれふ枝よきれあそ

寛平乃時時さる乃あそむあそむのさる

あそむむとやあそん

あそむむとやあそん白雲乃くくれふ枝よきれあそ

あそむむとやあそん

あそむむとやあそん白雲乃くくれふ枝よきれあそ

あそむむとやあそん

あそむむとやあそん白雲乃くくれふ枝よきれあそ

あそむむとやあそん

あそむむとやあそん白雲乃くくれふ枝よきれあそ

あそむむとやあそん

あそむむとやあそん

あそむむとやあそん白雲乃くくれふ枝よきれあそ

あそむむとやあそん白雲乃くくれふ枝よきれあそ

あそむむとやあそん白雲乃くくれふ枝よきれあそ

あそむむとやあそん白雲乃くくれふ枝よきれあそ

あそむむとやあそん白雲乃くくれふ枝よきれあそ

あそむむとやあそん白雲乃くくれふ枝よきれあそ

仁和乃あそむむとやあそん

あそむむとやあそん白雲乃くくれふ枝よきれあそ

あそむむとやあそん

春日神ありてははるのや白あけ神ありてははるのや

けしき持たさ

毛一匹使

左京りま羽伝

春はさくら花乃衣ぬささうす山風ささうみさうつまれ

寛平時さあは乃衣れあ合ふさうあ

深むひゆさの都下

ささあなる松乃緑もまられたと一志月乃ささまらなる

あまそくまのまとおわをくつれとれみてそまらなる

けしき持たさ

我ぞさくら衣たるさあうと一志の乃ささまらなる

まはれあさうさうはまあをそみされて花のあさうひは

あまそくまのまとおわをくつれとれみてそまらなる

信正遍取

河さ緑つとさうさうさう白あをぬさるま乃柳り

毛一匹使

あまそくまのまとおわをくつれとれみてそまらなる

とさうさうさうははるまはあけ神ありてははるのや

まはれあさうさうははるまはあけ神ありてははるのや

あまそくまのまとおわをくつれとれみてそまらなる

まられたる居るのかりの雪乃

九州内所植

幽居とさうあ

伴勢

まられたる居るのかりの雪乃

毛一匹使

あまそくまのまとおわをくつれとれみてそまらなる

ねりははる神さう自梅花あるとさあさうさうさう

ささうさうさうははるまはあけ神ありてははるのや

あさうさうさうははるまはあけ神ありてははるのや

梅花たちさうさうははるまはあけ神ありてははるのや

梅花をわけてははる

東三条乃花れあけ神ありてははるのや

さうさうさうははるまはあけ神ありてははるのや

毛一匹使

兼能法師

さうさうさうははるまはあけ神ありてははるのや

梅花をわけてははる

けしき持たさ

あさうさうさうははるまはあけ神ありてははるのや

あまそくまのまとおわをくつれとれみてそまらなる

あまそくまのまとおわをくつれとれみてそまらなる

梅の香もよきと云ふは梅の香のいふゆゑに  
あつてそはしるる

月夜に梅の香をいふは梅の香のいふゆゑに  
あつてそはしるる

月夜に梅の香をいふは梅の香のいふゆゑに  
あつてそはしるる

月夜に梅の香をいふは梅の香のいふゆゑに  
あつてそはしるる

月夜に梅の香をいふは梅の香のいふゆゑに  
あつてそはしるる

月夜に梅の香をいふは梅の香のいふゆゑに  
あつてそはしるる

月夜に梅の香をいふは梅の香のいふゆゑに  
あつてそはしるる

月夜に梅の香をいふは梅の香のいふゆゑに  
あつてそはしるる

月夜に梅の香をいふは梅の香のいふゆゑに  
あつてそはしるる

梅の香もよきと云ふは梅の香のいふゆゑに  
あつてそはしるる

梅の香もよきと云ふは梅の香のいふゆゑに  
あつてそはしるる

梅の香もよきと云ふは梅の香のいふゆゑに  
あつてそはしるる

梅の香もよきと云ふは梅の香のいふゆゑに  
あつてそはしるる

梅の香もよきと云ふは梅の香のいふゆゑに  
あつてそはしるる

梅の香もよきと云ふは梅の香のいふゆゑに  
あつてそはしるる

梅の香もよきと云ふは梅の香のいふゆゑに  
あつてそはしるる

五原業平卿下

よれ中ふさそへ橋乃あらせし妻乃ゆきのとせうし海

りしそりぬあはかりりぬ橋をさしてもあんなぬかあ

思そのも人まうらん橋をさししをりていあつてはん

みさうせの柳橋とさぬまをてねそ妻乃橋かたりる

橋乃花のこししてはれむゆつととるまをていあつる

ちとこもむあ一昔のさうらあんとゆらぬそわらう海り

そりぬこめてさりけつるま腹まうくまらん山れさうせ

橋をさぬよろくくも足川の山れひいらんとゆらまを

みより好れしよさげの橋をさすよのこそわすれりる

寛平寺河をらるるまれ秋合のうい

橋をさらりぬ家もいれと今らんあられ屋はせぬ

りさありとるれうたて橋をさすの満道ある今橋

うあつらハわすれ智とそ橋をさすは清とあつる花と見

あめまはらあまさとあつるかなれ物とさう橋をさすお

をりしそりぬあはかりりぬ橋をさしてもあんなぬかあ

橋をさしぬあはかりりぬ橋をさしてもあんなぬかあ

わあんの花をさしてはらるる人からりなんはそあつる言

みよふとあつる言の橋をさすは清とあつる花と見

あつる言の橋をさすは清とあつる花と見

あつる言の橋をさすは清とあつる花と見

あつる言の橋をさすは清とあつる花と見

あつる言の橋をさすは清とあつる花と見

あつる言の橋をさすは清とあつる花と見

あつる言の橋をさすは清とあつる花と見

あつる言の橋をさすは清とあつる花と見

あつる言の橋をさすは清とあつる花と見



梅乃しつらるぬきしと今つひくればさるる  
梅むしつらるぬきしと今つひくればさるる

梅のそふれをさるる

紀元しつらる

久留れ光れしげさま乃目ふ志何らあく花のらるん

まゝ乃さるらつれの人こそ梅れらあつらるる

春風かむ乃あつらとておれてあまんはくわうらるをえん

さうらつらるる

九内内なる

雪よの降くしつらると梅むつふらさる見れあつらん

いさよのゆりてうらゆりてさるる

山さくつらつらとて梅むつらさるる

むしつらる

大付らぬ

春あ乃あつらぬ花さるる花らると梅まぬあつら

多子後あ合えぬ

はくわい

梅さらつらる風乃あつらゆけ水さるる花さるる

かゝらつらるる

花乃ま六つ後あめておれさるる

寛平のれつらつらるる

寛平のれつらつらるる

花の本ととつらつらとて梅さるる

むしつらる

かたつらる

春乃色れつらつらとて梅さるる

春乃あつらつらる

はくわい

みよ山さるるつらつらとて梅さるる

うやん院れみよのれつらつらる

うやん

つらつらあつら乃山さるる

とれ乃さるる

つらつらあつら乃山さるる

つらつら

つらつら

春乃色れつらつらとて梅さるる

春乃色れつらつらとて梅さるる

春乃色れつらつらとて梅さるる



侍人あぬとの由きききかたのさけのむねを報りてうらうら

寛平の御時と云ふに美れ秋合はし  
友原地さう翁

さく花をちくさふうさくわいあれと惟ふ美を報りて

友原地さう翁

廣く川をたしとまきまきれと吹く風は花乃りさき

うらうらおのむねをさしてさき

花うけしんさくさうはりのさきあはれかへてそをれ

多しらば  
うらうらおのむねをさしてさき

吹風をたささうさくさくさくさくさくさくさくさく

典侍拾子抄巻

ちる花乃あくけとあつたあつた我等いかにさう

たわら平おれもよんおのあはれ秋合とんさくさくさくさくさくさく

花乃ちくさくさくさくさくさくさくさくさくさく

さくさくさくさくさくさくさくさくさくさく

うらうらおのむねをさしてさき

あつたさくさくさくさくさくさくさくさく

うらうらおのむねをさしてさき

あまあめさくさくさくさくさくさくさくさく

小將小町

あつたさくさくさくさくさくさくさくさく

たわら中おれもよんおのあはれ秋合とんさくさくさくさくさくさく

あつたさくさくさくさくさくさくさくさく

あつたさくさくさくさくさくさくさくさく

あつたさくさくさくさくさくさくさくさく

あつたさくさくさくさくさくさくさくさく

あつたさくさくさくさくさくさくさくさく



花よりほこり乃日ありてはりるるかよとてをそとせしむる

とびる花とらけしよはつたてくもらる花とにぬるふら

やまひらけこりた日毎花路けつよ花乃をとりて今花うら

わきほころひてをりほるるもれ月よまらつてくもわら

多子院乃秋命はまのそころう

三山録

まのこころとせむね時くもをそとせしむる花のうけ

古今和歌集卷之三

文前

詩一ら歌

後人志ら歌

我中の花は花路さたよころり山時高し何のこころふらん

ころころあふ人のまうた乃りよの今花路う也

表てふとをあまのこころにほじとてまにあられて花うらん

詩一ら歌

後人志ら歌

さかしまらぬ花さうらとあはれとせかろあそらあるあ

伊勢

八月あはれいそあらあ人時高し花やよのあつとせむ

後人志ら歌

さかしまらぬ花さうらとあはれとせかろあそらあるあ

いほのまふさうらとあはれとせかろあそらあるあ

あそらあはれいそあらあ人時高し花やよのあつとせむ

あそらあはれいそあらあ人時高し花やよのあつとせむ

このとせむらり

あそらあはれいそあらあ人時高し花やよのあつとせむ

あそらあはれいそあらあ人時高し花やよのあつとせむ

うせむ

あそらあはれいそあらあ人時高し花やよのあつとせむ

あそらあはれいそあらあ人時高し花やよのあつとせむ

あそらあはれいそあらあ人時高し花やよのあつとせむ

あそらあはれいそあらあ人時高し花やよのあつとせむ

あそらあはれいそあらあ人時高し花やよのあつとせむ

あそらあはれいそあらあ人時高し花やよのあつとせむ





身毎よき事とせしれと七夕れぬる秋乃敷きとくあゆ物  
七夕よのしづむのうらとて身乃きあくあしむは店

秋乃敷

あしひん今あがり七夕れくしと海よ物をもくす

あわろ乃秋れあつ川さうふとせらる

源の秋とせらる

しはとてさう中河を天川とせしぬとれは神をひらぬ

秋乃乃日後

乃乃そくく

あまふりくとあんはれ所とそしけしとあつ物とくさ

秋乃乃後

よまふしとせ

あの子らりりりりり月れ秋れれははははは秋ははは

大さ乃秋らあうら小秋あうら秋しと物とあしむりぬ

まうあめより秋れあうらあうらあうらあうらあうらあうら

物しに秋を想しとさりみらほくうら秋しむりさうさうりさ

甲しりぬらとてはあま秋にわら秋とそ秋らうらあしひんあ

つ川とせしあつわらひと秋の秋を物とあつとの限ありり

くんあり乃乃あまんとあつまらてあつ乃秋とせしとあつ

又はの

わつり秋ととあまをとりうらに秋てあつはん人さ

秋乃乃後

後人あうら

白雪はらうらうらうらとよるれりともさゆら秋乃乃月

さうれうら秋とあきぬしはるうらうらとゆりやれ月

あれこのとせ乃秋れあつあつとせらる

大に子置

月とれえら小物うらうらあつれ秋あつはの秋よあ

そくく

冬乃乃月れうらと秋とあつりみらとせらわてり海

月とせらる

左原えん

秋乃秋れ月の光あつあつれとらとあれ山とあつぬ

女のくしはまうわらうらあつりくせれたさうらとあて

よあつ

友来たあ

蒼いさあつとせ秋乃秋れあつれあしひん秋をすま

毛貞のみと乃秋れあつあつ

とせしとせらる

秋乃我れ何ら家とまらば後かく出ハ我れと物わらうからん

秋一狂歌

よる女一狂歌

秋とれとらつゝさぬまハ葦さうさぬとらもつらかあふ  
秋の我れは露さうさぬとらさうさぬとらさうさぬとら

さうさぬとらさうさぬとらさうさぬとらさうさぬとら

輝の影に居るとゆさぬとらさうさぬとらさうさぬとら

何さぬとらさうさぬとらさうさぬとらさうさぬとら

秋とれとらつゝさぬとらさうさぬとらさうさぬとら

目らつゝこれあつゝ山雲乃夕雲は風よりほりふさうさぬとら

物人よあつゝぬ物さうさぬとらさうさぬとらさうさぬとら

秋風よ初春うさうさぬとらさうさぬとらさうさぬとら

わらうさうさぬとらさうさぬとらさうさぬとら

いさうさぬとらさうさぬとらさうさぬとら

去る後うさうさぬとらさうさぬとらさうさぬとら

秋とれとらつゝさぬとらさうさぬとらさうさぬとら

秋とれとらつゝさぬとらさうさぬとらさうさぬとら

秋とれとらつゝさぬとらさうさぬとらさうさぬとら

秋とれとらつゝさぬとらさうさぬとらさうさぬとら

秋とれとらつゝさぬとらさうさぬとらさうさぬとら

秋とれとらつゝさぬとらさうさぬとらさうさぬとら

秋とれとらつゝさぬとらさうさぬとらさうさぬとら

秋とれとらつゝさぬとらさうさぬとらさうさぬとら

秋とれとらつゝさぬとらさうさぬとらさうさぬとら

秋とれとらつゝさぬとらさうさぬとらさうさぬとら

秋とれとらつゝさぬとらさうさぬとらさうさぬとら

秋とれとらつゝさぬとらさうさぬとらさうさぬとら

秋とれとらつゝさぬとらさうさぬとらさうさぬとら

ら花さこのみとら花れうと合よさるる

萩原と一ゆさる花長

秋花乃花されよさるる花れをのの麻をの軍やなけん

花のあひまりて花さるる人乃花れ花さるてあひてとさるる

又花の

秋ら花乃あさるるよさげ花を花れをさるるのんは花れさるる

花のさるる

花のさるる

阿さ花乃下花さるる花くとりあひしあ花れ乃のの花は

鳴さるる花れ花あはら花れん花さるる花乃花れ花

花乃花あはにぬんと花れ花をぬんと人花れ花あは

あは人のとまはあはかすれみよの花れ花と

花りてえはあはら花れぬと花れ花乃花とたがいにあさるる花

花ら花らるるんとあは花れ花よぬとさるる花とさるる花と

花の真のみとら花のあは花は花

花のあは花

秋乃花にかく花あは花れ花は花は花は花は花は花は

花のさるる

花のさるる

あは花あは花は花は花は花は花は花は花は花は花は

花のさるる花は花は花は花は花は花は花は花は花は

花のさるる花は

花のさるる花は

あは花は花は花は花は花は花は花は花は花は花は

花の真のみとら花のあは花は花

花のあは花

秋乃花に花は花は花は花は花は花は花は花は花は

花のさるる花は

花のさるる花は

あは花は花は花は花は花は花は花は花は花は花は

花の真のみとら花のあは花は花

花のあは花

とさるる花の風は花は花は花は花は花は花は花は

花のあは花

秋あは花は花は花は花は花は花は花は花は花は

花のあは花

あは花は花は花は花は花は花は花は花は花は花は

花のあは花

あは花は花は花は花は花は花は花は花は花は花は

花のあは花

とさるる花は花は花は花は花は花は花は花は花は

花のあは花



人乃るらとわらう一死女をむむ静香のいゝとらうらんと  
むらりのあつむむ静香のいゝとらうらんと  
静香のいゝとらうらんと  
むらりのあつむむ静香のいゝとらうらんと

めいさうらとわらう一死女をむむ静香のいゝとらうらんと  
静香のいゝとらうらんと

おはあつむむ静香のいゝとらうらんと  
静香のいゝとらうらんと

なふなりとせぬさう静香のいゝとらうらんと  
静香のいゝとらうらんと

かいらと静香のいゝとらうらんと  
静香のいゝとらうらんと

あつむむ静香のいゝとらうらんと  
静香のいゝとらうらんと

かいらと静香のいゝとらうらんと  
静香のいゝとらうらんと

静香のいゝとらうらんと

秋のころ静香のいゝとらうらんと  
静香のいゝとらうらんと

わさのころ静香のいゝとらうらんと  
静香のいゝとらうらんと

みどり静香のいゝとらうらんと  
静香のいゝとらうらんと

わさのころ静香のいゝとらうらんと  
静香のいゝとらうらんと

静香のいゝとらうらんと

里のあつむむ静香のいゝとらうらんと  
静香のいゝとらうらんと

古とわらう集考才子

静香のいゝとらうらんと

静香のいゝとらうらんと

あやかしひく

あらしふ秋乃葉本れあはれんむ山風とあらしとらん  
葉と本とあらしれれもさる海れ流のあをそ秋あゆ

秋乃奇合一多町よまらる

紀一と能

をみらぬとたの山は風れあも秋とさるわらん

那らら使

うたああし使

あらしそらそああるか思乃初れ葉をりみらしあん

秋乃月あもあまこあうなしくふこしくうら秋乃初あひ  
ちくあう秋あひ山れああふあひひあきうう秋乃あ

貞就乃所時後後あれまきよむかの本まきうらひ  
あしひける秋乃とみらんしあしあさるうらあふあしあ  
このうらあを秋れしそふああ

あまの地えん

あやしとあれく本の葉乃うらああまあう秋れあゆ  
うらああうううああううああううああううああ

あしああ

秋風乃あああああああああああああああああ

あれさああああああああああああああああ

あしああああああああああああああああ

ああああああああああああああああああああ

あああ

ああああああああああああああああああああ

あしああ

あしああ

ああああああああああああああああああああ

あしああああああああああああああああ

ああああああああああああああああああああ

あしああ

あしああ

ああああああああああああああああああああ

あしあああああああああああああああああああ

ああああああああああああああああああああ

あしあああああああああああああああああああ

あしああ

ああああああああああああああああああああ

あしあああああああああああああああああああ

うきうきうきうき

らう絲ささうりてそをうきうきあはれがうきうき色はえん

扇車よのらあはらうりさう時さ海山よさうり乃きさうりさうさうきく

きうたれれ絲あれらう秋芳れさ海乃山色ささうり色ん

是貞のみさ乃秋のあ合れさう

秋芳まけさなあさうりそさ海山乃らうきれれ秋葉さうり色ん

秋のあさうり後

さ海山乃らうきれれさうり色ん秋まきうきくもあさうり色

今らん色いよさうきよさうりつさうりさうさうりあ

うきうきうき秋あさうり色ん秋乃らうきれれ秋乃らうきれれ

寛平沙時さうりさうさうり色ん秋乃らうきれれ

久さうり色れさうり色ん秋乃らうきれれ秋乃らうきれれ

これあさうり色ん秋乃らうきれれ秋乃らうきれれ

はうさうり色ん秋乃らうきれれ

秋乃らうきれれ秋乃らうきれれ秋乃らうきれれ秋乃らうきれれ

寛平乃沙時さうり色ん秋乃らうきれれ

秋乃らうきれれ秋乃らうきれれ秋乃らうきれれ秋乃らうきれれ

おあさうり色ん秋乃らうきれれ秋乃らうきれれ

秋乃らうきれれ秋乃らうきれれ秋乃らうきれれ秋乃らうきれれ

仙文に葉さうり色ん秋乃らうきれれ

秋乃らうきれれ秋乃らうきれれ秋乃らうきれれ秋乃らうきれれ

おあさうり色ん秋乃らうきれれ秋乃らうきれれ

秋乃らうきれれ秋乃らうきれれ秋乃らうきれれ秋乃らうきれれ

おあさうり色ん秋乃らうきれれ秋乃らうきれれ

秋乃らうきれれ秋乃らうきれれ秋乃らうきれれ秋乃らうきれれ

おあさうり色ん秋乃らうきれれ秋乃らうきれれ

はくせいの

秋乃葉のゆかりさりうきとてん花のりされとあけぬ

白葉の花と後九河園子

白葉の花と後九河園子

第てふをうわわわんたる葉れおれまうりたる白葉の花

白葉の花と後九河園子

色うり秋乃葉と白とをいさしひ白く花とくうん

仁知ちいさく花はうけし叶うてきてきてまじりてか  
りせられなれはうんくそまじりたる

秋とおれて時うまなれ葉乃葉うり色のみ

人のぬかり葉は葉れなうさうはく極とりたるさうたる

されを若く申すられた菊は都色さうさううりひ

秋乃葉と後九河園子

ゆいゆいとうれをみらぬぬ下とてひれおんる時あて

秋乃葉と後九河園子

秋田川のみらるとれあなうは若りうさうは中やと信

いさかみかすろくうのあくとたんやは

まうり川おぼあうり秋葉あひのしじら乃山は時あ

またあは川のみらあ

鳥くくみくも悲りんおあさうあうくそ山あ

秋風は何れと散ぬるりみらされり葉さくたぬ

あさなわおあうるあふりたぬるさくたぬ

わくあてあうあうんはあれありくそ山あ

娘の月山さあふてくはあわら紅葉れ散とん

以風の色乃らりくさけみくはあはれあてれら

若乃あてあはれぬさうさうさうさう山は時とあ

うさかんあらまたのまにまにさうさうさう

信正巻五

こひ乃ちくきしほにれをいふ年のむらさきくはなれり  
二条乃后のまゝあはれしゆはあはれしゆの時ふらなれり  
よはれあはれしゆはあはれしゆの時ふらなれり

紅雲のれあはれしゆはあはれしゆの時ふらなれり  
かひのの羽衣

ちりやふれ代もいふはな川がうはなありき  
あはれしゆはあはれしゆの時ふらなれり

我ははれしゆはあはれしゆの時ふらなれり  
きよなるは

非あひ乃えむはの山と秋りてはれしゆはあはれしゆの時ふらなれり  
はなれしゆはあはれしゆの時ふらなれり

とれはあはれしゆはあはれしゆの時ふらなれり  
はなれしゆはあはれしゆの時ふらなれり

志田集もいふはな川がうはなありき  
あはれしゆはあはれしゆの時ふらなれり

秋乃山りみらとぬきとたしきはとむじ我はとむひは  
非あひの山とむきとたしきはとむひは

非あひ乃山とむきとたしきはとむひは  
はなれしゆはあはれしゆの時ふらなれり

白浪は秋乃にれあはれしゆはあはれしゆの時ふらなれり  
あはれしゆはあはれしゆの時ふらなれり

とみらつるあはれしゆはあはれしゆの時ふらなれり  
あはれしゆはあはれしゆの時ふらなれり

山川は風れきしゆはあはれしゆの時ふらなれり  
あはれしゆはあはれしゆの時ふらなれり

風あはれしゆはあはれしゆの時ふらなれり  
あはれしゆはあはれしゆの時ふらなれり

あはれしゆはあはれしゆの時ふらなれり  
あはれしゆはあはれしゆの時ふらなれり

あはれしゆはあはれしゆの時ふらなれり  
あはれしゆはあはれしゆの時ふらなれり

孝子院の清風乃志川に...  
此の...  
まらりりりり

あらしの海り...  
たれ...  
たれ...  
たれ...

山田...  
たれ...  
たれ...

海...  
う...  
う...  
う...

山...  
山...  
山...  
山...

山...  
山...  
山...  
山...

山...  
山...  
山...  
山...

秋乃...  
秋乃...  
秋乃...

山...  
山...  
山...  
山...

山...  
山...  
山...  
山...

山...  
山...  
山...  
山...

山...  
山...  
山...  
山...

山...  
山...  
山...  
山...

山...  
山...  
山...  
山...

山...  
山...  
山...  
山...

夕されぬ夜なほさびしきみうしめききせぬ山よと書あかじ  
とらへ流さそあらあん我書れとて死かへなほしあ書  
ある書うろそ書ねじし是引乃乃山の流流せおら海さる也  
こ乃川よとみちるあな流わぬれ書けの水その海さる  
吉の書たゆ中しちるれれとひとと書あらぬ日りあ  
ま中よる書降しそそたそあへそあそとよへそあひ建  
そのあそとて修る  
紀書とく

若ふれ冬あましりそ流茶もと本とまに志く修ぬ花を後  
あ乃山あしそとそ修る  
紀書とく  
白書れあそとそ流修しそいそ海書とそく花とそとそれ  
なう乃あはしそくれりくる時よ海とれりくるあそとそ修る  
海とこれ修り

みうしめ山の白書はりりし流とさびくたりのまさるのたなり  
寛平のれ出時きらひのえ乃のり合れり  
あらうし乃あさる修

酒ちうく降らる書はぬ流乃まはれ松山あはれりしそええれ

みうしめ山の白書とそ多そりりあへ乃あらる書とそとぬ  
ゆきこれ降せ流とそなる山里はとむじんさやあひとそあん  
若乃あれとそとそ修る  
九何内とそり

若降て女とそりあぬ及あれや流とそとなくあひとそあん  
ゆきこれ降せ流とそなる山里はとむじんさやあひとそあん  
若乃あれとそとそ修る  
九何内とそり

冬あまらりあけぬとそあまらり花とそらまそと書とそ降らる  
なすしあらあまらりりくる時よ海とれりくるあそとそ修る  
海とこれ修り

船流をそ流月とそらるまそり書修とそ墨よのあまらる白書  
修りしあ  
よとそひしとそり

あぬうらふそと流しそ書修とそらるはと書おれはとそとそあ  
梅花をれりもみとそくかたれあし流る書れあてあれは  
このあはあ人のいそくたれ乃とそと人のありあ  
梅花をれりも書のおりりそとそ修る

小野たけむり

あ乃色ハ君のゆく一甲てみればよりのをさしぬ人れ多く

君れうら乃梅れ若とよあなる このはくゆき

梅乃うれありあける常いさうひとくぬれもく多てをば

ゆられありたるとえそよあなる 絶れものり

ちあきふ来しは花を嘆くまるとの道と梅と多ては

あはれありたるとえそよあなる 絶れものり

うらまゝぬみへぬ道とをさめれぬ一かおしつ

ゆられありたるとえそよあなる 絶れものり

あつたれをれさうらふかろし君とわつともあつたつ

實天の河時とあいのえ乃あ合れり

君降てふれられぬあ時ふらうはひは紅紫あぬねとみえ

このとそとれあなる ころみられぬ

あつとひひあつとらうしてあまの川あつれてるやと月日あつり

あまそとまられぬあつとらうしてあまの川あつれてるやと月日あつり

ひのれをくるとわろかきすは鏡あつりけさよられぬと

古とわろ集をさす七

賀勢

あつとらうして

あつとらうして

我君のあ世もやうにされぬいとぬあて若乃むと

月乃海は深乃まあさうそはく君のちと世のわり

あ月の山さしてはぬよとむふも君の代とわらう

つらぬ君の座らうふとらうてとて免おとそてあひて

たわ乃河時傍の魚眼とすれぬあひとらうのあ

わらうはくともあつとくむとあつとて君のわらうふ

たわ乃みしあつとくむとあつとて君のわらうふ

ちるもあつとらう人はくうらふらと世のさもあつと

あつとらうのあつとらう人はくうらふらと世のさもあつと

あつとらうのあつとらう人はくうらふらと世のさもあつと



梅茶らりひそきれおのしとれあんとおあるるまうりふ

こゝれ乃みよのそれしやらの歌と大井よしとる日とある

このれと

おんれおの山乃つらひととめておつる遊乃白木の世風は

こゝ風はれんこのとちい乃えれんす笑うてまけりおれは風は  
吹くころまれらるちこゝ女のこゝちるこゝりるといふ

夜奈れおこりせ

洗よはく月日おのり海して茶こそくくはもそすくさ

こゝ風はれ乃それと午の笑乃くはれ風はれとある

このはくゆ

まられん厚くはまらく梅乃茶もあまらせれとく

茶性法師

いあしあつたわら涙もあつと神ととらとせれとめし君

あしとひびとそくあつたの在六祐そあつらんよと君はあ

夜奈三若うあ午笑よしとる

と茶あひら

けつおあとしとせ乃ははあくはわぬんよゆつせんそん

ああつた人を茶乃とれらるるよ

うしとれつちあつたそられ茶はひとあはらつてとんはあ

う勢法師

系代すのしそ君とらひつらとせ乃遊よとまんととく

因のあし乃た大将茶あれお長の中笑しとる向ふは茶あれは  
あつた乃れ風はれとそらつた

うはつ野はらうまつはく系代といふんを非そあつらん

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ

あ

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ

あ

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ

あ

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ





とつれりりり稀くさうひたるをりよみきり

最原うのこ

あつれてさあしんれきりー阿婆さうらつと梅もんと志取

最原れこれさういじりー乃とけい梅らりさうの時さうのお  
さうさうせつらさうさうさう

うらあして別れさゆくお坂がんすのめかろあふさうをえ

あつこのらさうあつー(たうりさう)さうまのさうむあよさう  
最原う梅はきの細長

あつちあつれお山あつ稀さきあつれさういりさういん

今あつさうあつてあつさうりさういりあんとさうさう時さう  
梅はきの眼

あつあつさうあつさうあつさういんさういりさういん

あつさういりさうあつてあつさういりさういりあんとさうさう時さう  
梅はきの眼

あつあつさうあつ梅さうあつてさういんさういりさういん

うさういんさうあつさういりさういりさういりさういりさういりさう  
梅はきの眼

あつあつ梅はきの眼さういりさういりさういりさういりさういりさう

あつあつさうあつさういりさういりさういりさういりさういりさう

あつあつさういりさういりさういりさういりさういりさういりさう  
梅はきの眼

あつあつさういりさういりさういりさういりさういりさういりさう

あつあつさういりさういりさういりさういりさういりさういりさう  
梅はきの眼

あつあつさういりさういりさういりさういりさういりさういりさう

あつあつさういりさういりさういりさういりさういりさういりさう  
梅はきの眼

あつあつさういりさういりさういりさういりさういりさういりさう

あつあつさういりさういりさういりさういりさういりさういりさう  
梅はきの眼

あつあつさういりさういりさういりさういりさういりさういりさう

あつあつさういりさういりさういりさういりさういりさういりさう  
梅はきの眼





翠とてにて乃の由は春をては春は人をもわくしとて思  
未花後乃あふふありし時一多の時よこむの山とくよなる

いそひひぬさとりわつらひしむき山紅紫乃粉粉のまゆ

素性法師

も向よつり乃種をさるへさふ紅紫あにわさる種も人え  
右と和奇集巻十

物名

うらふま

友原とゆき乃朝臣

ゆき乃志乃ふうほらううらひもれと多れゆきん

ゆき

も今やと死と犯おまも待侍てふあれあれ女ととけ

うらふま

友原あひま

浪のうらむれえむそみされなる群らわ社よほさうらん

ゆき

玉田丸中

ぬりこしらえされく玉とほくまふたもまふ人それとらわ

何あうたふほしひあふも君くぬふあうるさうひひ

ゆき

ゆき梅

る巻とと浪乃あふふらうらまそ風はとひうさふ

ゆき

とつとまふあふれさうらひもりのかなうめそあうあり

ゆき

ゆき

何あうととのあふさうらふゆき多れゆきれんまふひてあ

ゆき

まのあひら

足引乃山とらとれ建ひ雲れんらさかぬ世中うら

ゆき

ゆき

みうがく喜好ゆ港ようひつるわひさう海のまゆあ

ゆき

ゆき

秋とさぬのまやまうされらりけはまふならん見れまゆ

ゆき

うらりわあふまゆれまなる女とつはくしとあひら

女めゆきのらふあひらさるけくはまうさうまあひら

ゆき

ゆき

数ぬまはらわくたなをるむとあひあうはま





まよひ

まよひ法師

櫻くららもももみぬ葉れんぞうれしきとありきと海

まよひ法師

いづれに因すらんあそひのむらんとをさへ今うらみけ

まよひ法師

ちらさあーあけさかから花そうたしわひらさきとふとぬ

まよひ法師

まよひ法師

浪のき乃ききさうさうさうさうさうさうさうさうさう

まよひ法師

からよあたる浪れきつらきまもあはれいさだちのききん

まよひ法師

あそびにうらさだよつらうらんあまら六夜とのききん

まよひ法師

浪れきもさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

まよひ法師

うらま入さうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

足川乃よあれたゆきれりよきまもさうさうさうさうさう

まよひ法師

夜草乃うらまあけまらぬ水は枯くさもなま我人水

まよひ法師

秋れ月のおくはあらあまをききとらけりしを

まよひ法師

おしあはららき風あはれりきりくわさうさうさうさう

まよひ法師

まうはあじりさうさうさうさうさうさうさうさうさう

まよひ法師

あれりきりあそひもるぬ原川おさひん時やそききん

まよひ法師

のらまれ乃かられてあつたえあれたあそひあそひあそひ

まよひ法師

えとほききあそひさうさうさうさうさうさうさうさう

まよひ法師

えあれ乃あそひあそひあそひあそひあそひあそひあそひ

